



JOSEI KANAGAWA

浄青神奈川

大本山光明寺法主宮林昭彦台下御染筆

神奈川浄青機関紙

No.30

発行責任者 夏見裕貴
発行 浄土宗 神奈川教区 青年会
発行日 H.16.3.1

りん に わ い 輪意和以

—Let's 和GO!!—



第14代会長
夏見 裕貴

で邁進した2年間...

第十六期神浄青では「輪意和以」"Let's and GO!!"を活動テーマにし、執行部をはじめとする各組常任理事並びに理事各位、そして会員諸師のご協力により一期二年の諸事業を無事遂行できました事、あらためて御礼と感謝を申し上げます。

今期は「和」を基本理念とし、実践を通して「和」の充実を図り、浄青三信条である「自行・化他・和合」のもと、会員が自らの手で各事業に携わり、創り上げる過程での楽しさやつらさ、そして円成した時の充実感や達成感を共有し、友情を育み、一人一人の意を大きな輪とできるよう六つの委員会を設置し活動を致しました。

資質向上委員会【自行】

私どもが日頃ご縁をいただいている大本山光明寺開山忌法要に併せて、浄土宗第三祖然阿良忠上人記主禪師のご報恩に謝し、同じく良忠上人が御開山であられます、鶴見矢向の良忠寺様よりご法灯をいただき、昼夜兼行にて三六キロを念仏行脚にて献灯を致しました。

社会教化事業委員会【化他】

現代社会はこのころの時代とも呼ばれ、心の健康に関しての記事がメディアを通して大きく報道されています。そんな中で、地球の宝である未来ある子供たちに、豊かなころを育み、私たちが暮す地球、そして自然の恩恵に感謝する心、世界中の皆と仲良く暮せるおもいやりの心を育む事業として「感謝し隊」と題し、

県内の小学生を募集し、作物作りを通して命の尊さや天地の恵みを感じ、感謝の気持ちを持ち、それぞれの地域でリーダーになってもらえるようなプログラムを行いました。

親睦事業委員会【和合】

会員家族の方々に日頃の浄青活動の一端を認識していただき、交流の場を目的とした家族会を開催し、家族の顔がみれる浄青を目指しました。

編集委員会

昭和五十二年、第二代柴田哲彦会長より継続されている対外紙「浄青神奈川」と、対内紙「Voice Base通信」の発行と教区所管であります神浄青のホームページの更新、又各事業や研修会の取材等広く活動致しました。

第三十一回関プロ総会

並びに研修会実行委員会

九年に一度輪番にて開催を担当している、関東ブロック浄土宗青年会総会並びに研修会を横浜にて行いました。今回はテーマを「篝火」今こそ時代を照らそうと、浄土宗

「二十一世紀劈頭宣言」を題材にし、

例年行なわれている講師中心の研修会ではなく、浄土宗青年僧侶として二十一世紀という時代にどう行動すべきなのかを、全員参加型の手作りの研修会にて行い、お念仏の伝弘者として法然上人のみ教えを私共自らが地域社会の篝火となるよう発信致しました。

神浄青創立三十周年記念事業 特別委員会

テーマを「時代を超えたネットワーク」とし、昭和四十八年十一月に浄土宗開宗八百年を機に先徳諸上人によって発足創立された当会の三十年の祝賀を開催し、神浄青という枠の中で諸先輩と現役会員が浄青について熱く語らい、交流を持ち、諸先輩が築いてこられた神浄青の歴史と伝統、そして法灯を次なる世代、さらなる節目に向かっていける継承の場と致しました。

このようにこの二年間、様々な多くの事業を展開致しましたが、あくまで事業を遂行する事が目的だったのではなく、いかに志を同じくした会員の皆様と共に活動したかが大切であったと感じております。浄青活動の根底は、青年僧として宗祖法然上人立教開宗の精神に基づき、会員相互の研鑽と親睦の中で、多様化する社会に対してどうお念仏を広めていくか、その時代時代に即した柔軟な発想や活動が大切であるとご縁をいただいた方々にあらためて教えていただいた気が致します。

最後に一期二年間、私共第十六期に対しまして深いご理解とご支援を賜りました教区役職者、大本山光明寺、教区内諸大徳、神浄青歴代会長並びに諸先輩、教区関係諸団体各位に衷心より厚く御礼を申し上げ、浄土宗神奈川教区青年会第十六期結びの挨拶とさせていただきます。

合掌

平成十四年度事業報告

- 4月17日 大本山 光明寺 第一回予定者理事会
 4月17日 大本山 光明寺 定時総会
 5月15日 大本山 光明寺 第一回理事会
 5月22日 大本山 光明寺 大本山光明寺落慶・晋山法要手伝い
 6月1日 機関誌『浄青松奈川』第二九号発行
 6月3日 鎌倉 鶴ヶ岡会館 第十五期・第十六期 新旧役員歓送迎会
 6月20日 幕張プリンスホテル 第三十回関プロ浄青総会並びに研修会
 7月4日 大本山 光明寺 大本山光明寺開山忌前清掃奉仕
 7月4日 大本山 光明寺 第二回理事会
 7月28日 30日 大本山 光明寺 第五回夏期僧堂
 8月28日 ホテルイタリア軒 第三二回全浄青中央研修会（新潟）
 9月7日 小田原いこいの森 家族会親睦会（親睦事業委員会）
 9月11日 大本山 光明寺 第三回理事会
 9月17日 大本山 光明寺 関プロ浄青三大本山別時念仏会
 10月9日 大本山 光明寺 大本山光明寺十夜前清掃奉仕
 10月9日 大本山 光明寺 第四回理事会
 10月14日 大本山 光明寺 十夜手伝い、十夜托鉢（各組代表者）
 10月29日 群馬工科大グラウンド 第二十回関プロ浄青ソフトボール大会
 11月14日 対内紙『NICE BOSE通信』Vol.6発行
 11月28日 第二十回神浄青ソフトボール大会（三浦組）
 12月2日 大船 ホテル好養 第五回理事会
 12月2日 大船 ホテル好養 神浄青忘年会
 1月16日 大本山 光明寺 第六回理事会
 1月24日 大本山 光明寺 御忌別時念仏会
 2月19日 20日 善光寺 大本願 全浄青代表者研修会
 2月26日 大本山 光明寺 第七回理事会
 3月8日 港北組 専念寺 「感謝し隊」第一回
 （社会教化事業委員会）
 3月28日 大本山 光明寺 第八回理事会
 4月2日 大本山 増上寺

平成十五年度事業報告

- 4月2日 大本山増上寺 関東三大本山別時會
 4月18日 大本山光明寺 定期総会・神浄青入会式、卒業式
 4月19日 対内紙『NICE BOSE通信』Vol.7発行
 4月26日 港北組 専念寺 「感謝し隊」第二回（社会教化事業委員会）
 4月30日 大本山光明寺 第一回理事会
 5月29日 30日 新横浜国際ホテル 関東地区児教連研修会（神奈川教区）手伝い
 6月3日 大本山光明寺 第二回理事会
 6月26日 27日 横浜ロイヤルパークホテル 第三一回関プロ浄青総会並びに研修会（神奈川教区）
 7月3日 大本山光明寺 大本山光明寺開山忌前清掃奉仕
 7月3日 大本山光明寺 第三回理事会
 7月5日 6日 良忠寺 光明寺 開山忌念仏行脚（資質向上委員会）
 7月21日 港北組 専念寺 「感謝し隊」第三回（社会教化事業委員会）
 7月28日 30日 大本山光明寺 第五六回夏期僧堂（関東地方教化センター）神奈川教区
 8月27日 別府市ビトーコンプラザ 第三三回全浄中央研修会（九州ブロック・大分教区）
 9月3日 大本山光明寺 第四回理事会
 9月23日 大本山光明寺 日想観別時念仏会
 9月23日 善光寺大本願 関東三大本山別時念仏会（長野教区）
 10月7日 大本山光明寺 大本山光明寺十夜前清掃奉仕
 10月9日 大本山光明寺 第五回理事会
 10月14日 大本山光明寺 十夜托鉢・十夜法要手伝い
 11月4日 土浦市東部地区市民広場 第二一回関プロ浄青スポーツ交流会（茨城教区）
 11月10日 大本山光明寺 第六回理事会
 対内紙『NICE BOSE通信』Vol.8発行
 11月21日 横浜スタジアム・華正楼 神浄青三十周年記念事業
 12月8日 未定 神浄青臨時総会
 12月8日 未定 神浄青忘年会
 1月24日 大本山光明寺 第七回理事会
 1月24日 大本山光明寺 御忌別時念仏会
 2月7日 沖繩 袋中寺 沖繩袋中上人四百年記念事業
 2月19日 20日 総本山知恩院 全浄青代表者研修会
 3月24日 大本山光明寺 日想観別時念仏会
 3月24日 大本山光明寺 第八回理事会
 3月1日 機関誌『浄青松奈川』第三十号発行

親睦事業委員会報告

32家族 68人参加！

平成14年9月7日小田原いこいの森 BBQ大会



委員長
成田 昌弥

そう、すべては2年前の、例年より暖かな晩春から始まったのです。

平成14年4月17日 浄土宗神奈川教区青年会 第一回予定者理事会 大本山光明寺のまだ真新しさの残る会議室に於いて、第16期会長になられたばかりの夏見会長は、心の内に秘めた熱い思いをやや押さえ気味に、社会教化事業・親睦事業・資質向上事業の三つの委員会について話し始めました。それぞれ、京浜・三浦・小田原の各組から委員長を選出して欲しと云われた時、私はまるで、宿題を忘れたのに突然先生に指されてしまった生徒の様に、この窮地をどうすれば乗り切れるかと考えました。

三浦組が資質向上事業を担当する事に決まり、残る選択肢は二つ。どちらが良いか？焦るな！焦ると決して良い結果は無い！しかし私は十分に焦っていた。以下は当時の議事録の私の発言。「小田原は色々施設があるので親睦事業を引き受けたい。」ただ、「親睦事業を引き受けます。」で良いのに「小田原は云々…」と云うところが言い訳がましい。と云うか往生際が悪い。第一「色々施設が」ってそんなに無いじゃん。

親睦事業で一体何をしたら良いか、組で話し合い、そして執行部会議、理事会議を重ね、悩みに悩み、考えに考え、結局バーベキュー大会と具体案が固まり行く中で、ただ単にバーベキューをやるだけで終わるのでは無く、夏見会長が提唱された「和合」の精神を生かし、参加する神淨青会員とその家族のみんなが、楽しく過ごす時間を共有出来る会にしなければと徐々に駆られていきました。

当日、何とか天候にも恵まれ、多くの会員とそこご家族に参加頂き、大変賑やかに開催する事が出来ました。各組の親睦委員の皆様には言葉に言い尽くせない程に感謝しております。また、現地調査会で盛り上げてくださった方々、当日に雑務等ご協力頂いた方々、執行部の皆様、そして夏見会長、本当に有難うございました。いつか参加した子供たちが、大きくなって浄青に参加し、皆で今回の親睦事業の事を少しでも思い出してくれたならと思います。



社会教化事業委員会（感謝し隊）報告

未来ある子供たちに、豊かな心を・・・

第1回 平成15年3月8日

テーマ「仲間」～目に見えるところへの感謝～

第2回 平成15年4月26日

テーマ「向上」～目に見えないところへの感謝～

第3回 平成15年7月21日

テーマ「感謝」



委員長
加藤 光成

社会教化事業委員会を担当させて頂きました京浜組加藤光成です。昨年の3月に始まった社会教化事業委員会・「感謝し隊」も神浄青の方々のおかげさまを持ちまして3回とも無事に終了させるが出来ました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

事業開始当初は何もなかった土地を、執行部の方々と委員会のメンバーで耕しました。特に當間上人などは、ユンボや耕運機などを使って作物の出来る土地に仕上げてくださいました。これにより本当に作物が出来るのだろうかという当初の不安はなくなり、委員会メンバー一同胸を撫で下ろし、これから始まる事業にメンバーが一致団結できたように思います。畑作りも終わりその次の課題は子供集めでした。この作業がこんなにも大変だとはその当時分からず、浄青の理事の方々や相談役などにアドバイスを頂き、最終的には37人まで集まりました。何とか当事業が出来るようになり、本当に人の和、浄青の和合を感じ取った瞬間でした。

子供達も集まり、子供達に楽しみながら物への感謝、食への感謝、命への感謝、先祖への感謝、最後に阿弥陀様への感謝を知ってもらう為に“3段階の感謝”を計画しました。「子供達が楽しみながら」と言う事をキーワードに、まず畑で芋を作り、収穫し、その芋を食するという3段階です。昼食は子供達自らがカレーを作り食する、このような事で楽しみながら物への感謝、食への感謝、命への感謝を体感してもらいました。特にカレー作りでは子供達に怪我も無く、浄青の方々と協力し合い頑張って作っていました。その光景に夏見会長が「いいね～いいね～」と笑顔で連呼していたのがとても印象に残っています。

勉強会では斉藤匡念上人、成田昌弥上人に講師をお願いし、子供達に物、食、命、先祖、阿弥陀様への感謝を楽しく、そして解りやすく講義して頂きました。この講義に子供達も興味深く、引きつけられるように聞いて納得していた様でした。最後に阿弥陀様の感謝を形に表した感謝法要を行いました。その感謝法要では、いつも元気一杯な子供達も何かを感じ取るかのような顔つきで感謝法要を勤めていました。その後、子供達一人一人に誓約書と腕輪数珠を渡し、スマップの「世界に一つだけの花」を元気よく歌い解散した次第です。

この事業は浄青会員一人一人が、夏見会長の下一致団結できたからこそ成功した事業だと確信しています。有難うございました。



第31回 関東ブロック浄土宗青年会

総会並びに研修会実行委員会 報告

始-マ 篝火 火

～今こそ時代を照らそう！～

平成15年6月26日～27日

於：横浜ロイヤルパークホテル



実行委員長
三荒 弘道

聖号十念

平成14年の2月、当時次期神浄青会長予定者であった夏見会長より「次期の関ブロ大会は神奈川の地で開催される。その大会実行委員会委員長を引き受けてくれないだろうか？」というお声がけを頂きました。関ブロ大会といえば、関東内200名近くの浄青会員が集まる大きな大会であります。その企画・運営を取り仕切る実行委員会の長を果たして出来るのか、不安の中引き受けた事を昨日のように思い返します。

実行委員会スタート時、大会主催者側であります関ブロ浄青江口会長より「社会の経済状況は大変厳しい。大会費用は費用対効果を重々鑑みた上で考えていただきたい。」というご指導がございました。その様な中、実行委員会では「浄土宗青年会って何だろう？浄土宗青年会って何の為に存在するんだろう？」浄土宗青年会の根本を見つめる研修会にしていこうという話に次第と固まってまいりました。そこで法然上人のみ教えを灯火とし、自らも社会の灯火となっていくという意味を込め、大会テーマを「篝火」とさせていただきます。また研修内容は手作りではありますが、自分たちの手で研修プログラムを制作し、研修の柱を「21世紀劈頭宣言」とさせていただきます。

「研修会」「懇親会（交流会）」「総務」と3つの小委員会が中心となり、大会当日に向けて活動させていただきました。3つの小委員会とも数多くの小委員会を開催していただきました、研修においては「インストラクター養成講座」を開催し、大会当日の研修プログラムがスムーズに進行していくためにご足労いただきました。

大会当日は夏見会長の下神浄青一丸となり1人1人がその役割を真っ当して頂きました。関ブロ浄青江口会長からも労いの言葉を頂戴し、不手際もございましたが、今後の関ブロ大会のあり方に一石を投じた大会になったと自負をしております。

最後に今回の大会は、江口理事長率いる関ブロ浄青役員の方々、夏見会長率いる神浄青役員の方々、県内8組会長をはじめ多くの浄青会員のご尽力とともに、大本山光明寺、浄土宗神奈川教区、引いては神浄青歴代会長をはじめとする多くの神浄青諸先輩方のご指導、ご協力があって大会が無事に開催をされました。大会にご支援・ご協力を頂いた全ての皆様方から感謝申し上げご報告とさせていただきます。

合 掌



資質向上委員会(念仏行脚)報告

大本山光明寺開山忌法要に併せて

36km 念仏行脚！！

平成15年7月5日～6日

鶴見の良忠寺～大本山光明寺



委員長
清水 道善

今期第16代夏見会長の下、僧侶の自行の為に資質向上委員会が立ち上げられました。

自らを鍛えるためには何をすればよいのか、何が出来るのか、との基に会長以下現執行部の発案により鶴見良忠寺からの念仏行脚による材木座光明寺への献灯という企画が生まれました。距離にして実に36キロ、しかも7月6日の光明寺開山忌の開式11時までには到着という条件も付いていました。普段歩くことの少ない現代人の私達にしてとても僧侶らしい鍛練の場と思えました。実際委員会が実行に移る段にも良忠寺御住職並びに諸上人方々の快い支援を受けほぼ活動をせずに準備段階を終えてしまう状況でした。

さて明けて平成15年、ルート 休憩場所の選定、サポートの人選も終えていた委員会に仕事はありません。他委員会をよそに楽をさせていただいていました。あとは参加募集を掛けるのみでした。この年の開山忌は日曜日。その午前11時までには到着となると前日からの夜通しになります。いくら青年僧侶とはいえ土曜、日曜の法務は多忙です。参加者は少なく、ほほいなく思われました。しかし集まったのは25名、サポートなどで30名弱となりました。そのうち半数以上はその日の自坊での法務のため11時まで光明寺に留まることが出来ないという強行軍でした。きつい予定をやり繰りしてでも、是非との思いを感じました。執行部の考えが一番通じたときでした。

そして当日夜9時、良忠寺に於いて本尊前の灯りを戴き歩き始めました。心配した雨風もなく万事順調な進みでした。20数キロの後、夜明け前の港南正覚寺でお世話になっていると雨になり急いで出ましたが雨が強く一時断念、迎えを呼び帰途につきました。途中小袋谷で雨が止み再開、朝6時過ぎ無事到着となりました。

慣れぬ体には辛い夜でしたがいつもと違う時に違うところを僧侶として歩いたことはとても印象深い思い出となりました。この後開山忌に参列させていただいた折、この事業は評判がよく、夏見会長は今も御法主等お歴々より再度開催の要請を受けている様子です。

最後に参加者そして関連の方々にはとてもよくしていただき有難うございました。



神浄青創立30周年記念事業 実行委員会 報 告

テーマ「時代を超えた交流ネットワーク」

平成15年11月21日

ソフトボール大会 於：横浜スタジアム

記念式典並びに懇親会 於：横浜華正楼本店



実行委員長
富田浩雅

お蔭様で、平成15年11月21日に浄土宗神奈川教区青年会30周年記念事業を無事に開催することが出来ました。

前日からの雨が嘘のような雲一つ無い青空の下、横浜スタジアムにてソフトボール大会、場所を移動して中華街華正楼での記念式典並びに懇親会と成功裏に終了できましたことは、ひとえに来賓の諸大徳・OB諸先輩・そして会員各位のお蔭と、実行委員一堂深く感謝しております。

又、平成14年7月25日に第1回の実行委員会を開催して以来、実行委員会17回・記念誌、記念手帳打合せ14回・歴代会長インタビュー4回、その他会場である横浜スタジアム・華正楼での打合せ等、1年5ヶ月もの長い間ご協力を頂いた、会長・両副会長・両相談役を始め執行部の上の方には色々な面でのご配慮・ご協力を頂き本当にありがとうございました。

夏見会長の下、「時代を超えたネットワーク」と言うことで、諸先輩が神浄青を立ち上げようとした志を次なる世代に、そしてさらなる節目に向かって継承していける場を開催し、全会員と諸先輩方が神浄青という枠の中で、より一層の信頼関係を築き、歴史と伝統ある神浄青らしさを対内外へ発信できたらと思ひ、実行委員会メンバー一丸となって頑張ってきました。

記念誌は時代に配慮し、記念誌とCD-ROMを作成し現役会員・OB諸先輩・教区内寺院に計340冊を配布させて頂きました。内容では、アンケート調査を実施、現役会員の意識を調査し、これからの神浄がどう有るべきかどのように進むべきか問いかける事が出来たのではないかと考えております。

記念手帳は会員相互の連絡を簡易にする為、神浄青会員として使用するであろう便利な内容を入れ制作し現役会員137名に配布しました。

横浜スタジアムで開催したソフトボール大会は、来賓1名・OB諸先輩11名・現役会員83名の方々にご参加頂き、来賓の成田光俊教区長に始球式をお願いし、トーナメント方式で試合を行い優勝中郡組、準優勝小田原組という試合結果でした。30周年事業ソフトボール大会では、特別試合としてALL OB対ALL 現役の試合を行いました。白熱したゲームでしたが、結果はOB諸先輩方の勝利でした。

中華街華正楼で行った記念式典並びに懇親会は来賓12名・OB諸先輩17名・現役会員81名の方々のご参加を頂き、教区長・全浄理事長・関プロ神浄理事長のご来賓より祝辞を頂戴し、アンケート調査をプロジェクターを使って参加者全員で確認し、参加者それぞれがこれからの神浄青の事を考える良い機会になった事と思ひます。

実行委員会が活動し始めてからの1年5ヶ月、夏見会長を始め執行部の方々、当日ソフトボール大会・記念式典並びに懇親会のお手伝いをして頂いた現役会員の方々、本当にありがとうございました。



平成14年度事業報告

開山忌前 十夜前清掃奉仕

高座組



香川 陽祐

大本山光明寺の開山忌・十夜法要にあわせて毎年恒例となっている神浄青による清掃奉仕が七月四日（開山忌前）と、十月九日（十夜法要前）に行われました。参加者約三十名で今年も例年通り、御廟から山門前まではきおろし、

特に開山忌前には山門前の草むしりを、十夜法要前には境内のはき掃除を中心に行いました。



第五五回 夏期僧堂手伝い

鎌倉組



當間 伸行

去る七月二十八日（三十日）、大本山光明寺を会場に、二年ぶりに「夏期僧堂」が開催されました。

寺院子女と一般檀信徒子女とにクラス分けした法式指導にみられるように、宗門子弟の養成に主眼を置き、「僧堂」ならではの厳しさが追求されました。

教区長、教化団長以下教化団役員による仏教講話や法式指導、浄青と僧堂生による座談会、神浄青OBで神奈川教区児童教化連盟会長の北邨賢雄上人にご協力頂き、楽しいゲームや紙芝居など、スタッフによる「手作り」の魅力があふれた夏期僧堂だったと思います。先輩方の夏期僧堂にかけられる並々ならぬ熱意を例年以上に感じました。教化団を中心に指揮系統が一本化し、皆が動きやすくなったことも一因ではないかと思えます。



関プロ浄青・関東三大本山 別時念仏会（光明寺）

港南組



丸地 裕信

平成十四年九月十七日、大本山光明寺大殿にて、関プロ浄青恒例の関東三大本山別時念仏会が厳修されました。当初、予定されていた高徳院からの念仏行脚は、当日、あいにくの天候により残念ながら中止となりましたが、神奈川教区浄青会員を含めて約六十数名の参加となり、初秋の雨の中、本堂内にお念仏の声が高らかに響き渡り、厳粛に営まれました。



雨で中止となった鎌倉大仏からの行脚



神浄青 御忌別時念仏会

高座組



三浦 康志

平成十四年度御忌別時念仏会は、一月二十四日午後四時半より七時に大本山光明寺大殿を会場に開催されました。本年も昨年同様、礼讃（初夜礼讃）を取り入れた日常勤行式の次第構成とし、会長を導師・副会長を脇導師・各組会長を式衆・大木魚打ちと礼拝の発声を各組代表として、参加者三十数名にて行われました。

厳しい寒さの中でしたが、礼拝の数を重ね、またお念仏を唱えていくうちに、寒さも忘れて別時念仏に没頭する事が出来ました。法要終了後の夏見会長の挨拶で、「心がひとつになると木魚の音がひとつになる。これこそが、今期の浄青のテーマである『輪意和以』なのではないか」とありました。まさに、和を以って心（意）の大きな輪ができた、良い別時念仏会であったことをご報告致します。



平成15年度事業報告

神浄青定期総会

港北組



大橋 定敏

平成十五年度の神浄青総会は、四月十八日金曜十四時より大本山光明寺を会場に、会員総数二七名中、出席者四〇名、委任状四二名、合計八二名により成立・開催された。

当日は総会開会前に、まず光明寺大殿にて夏見会長のもと出席者全員で御回願おこない、会場の書院へと移動し開会となった。会長挨拶の後、来賓として成田教区長からの御挨拶を頂戴した。総会は、議長に夏見会長を選任し議案審議に移り、定足数の確認・資料の確認・平成十四年度事業報告並びに決算、そして平成十五年度事業計画並びに予算が承認され滞り無く終了した。

そして各組浄青会長より事業計画等が発表され、各組の個性が表れ和やかな雰囲気であった。本年は卒業会員である京浜組佐々木上人・港南組橋下上人・三浦組慶野上人全員が参加され夏見会長より記念品が贈呈された。また平成十五年度は、十名もの新入会員に恵まれ自己紹介の後、入会式参加の八名に、夏見会長より記念品の贈呈が行われた。

最後に渡部監事より総会全体の総括が語られ、無事閉会となった。



神浄青 日想観・別時念仏会

港南組



伊藤 知道

去る九月二十三日大本山光明寺において日想観別時念仏会が行われました。この法要は大本山光明寺法主 宮林昭彦大僧正台下の発願により、台下自ら御導師をお勤めになり、神浄青会員一〇名の参加を持って厳修されました。

光明寺の山門二階から真西に沈む太陽を背に、始まった別時會。日没礼讃が終り、御法主が転座されて一同が太陽を見た時、光明寺開山であり、浄土宗の三祖でもある良忠上人もおそらく御覧になり思いを凝らしたであろう、夕日が今まさに稲村ヶ崎に沈もうとしている瞬間でした。私も含めその場にいる皆の心が一つになった瞬間でもあったと思います。この別時會を發願され、御導師もお勤めになられました宮林御法主台下、また光明寺をお開きになった良忠上人に、感謝と感動の念仏・礼拝を捧げた日想観別時念仏会でありました。



第二十二回関プロ浄青スポーツ交流会(茨城)

小田原組



阿川 貫浄

平成十五年十一月四日、茨城県東部地区市民運動場に於いて、二〇〇余名(神浄青二四名二チーム)全一三チーム参加により表記の大会が行われました。

肌寒い中にも関わらず、活気溢れるプレーが目立ち、特に神浄青はチーム練習を全くしていないに関わらず、団結力を発揮し、Bチームが第三位という素晴らしい成績をおさめました。来年は更に上位を目指して頑張りたと思います。



名譽の負傷！
斎藤 匡念副会長



神縄・袋中上人来流 四百年慶讃法要

京浜組



森本 有史

平成十六年二月六・七・八日、沖縄県那覇市に於いて、袋中上人沖繩来航四〇〇年記念・慶讃法要、報告法要、念仏行脚、さらにエイサー不思議ウォーク等の行事が盛大に開催されました。

当日は沖繩とは思えない様なまさに寒風吹き荒れる寒空の下、全国から参加した浄青会員、寺庭婦人並びに檀信徒の皆様が、沖繩と本土に大きな橋を架けた袋中上人を頌徳し顕彰いたしました。



那覇市内を行脚する神浄青



8 組 報 告

京浜組



白石 隆弘

ここ二年の間、準備・計画してきた京浜浄青主催による授戒会も、会員はもちろん講師各位・組内寺院・浄青OB・寺庭婦人のご協力・後援をいただき、受者三三名の無事成満をもちまして終えることが出来ました。

私自身を振り返れば、私が浄青に入会したばかりの頃、現宗会議員の野呂幸忍上人が京浜浄青の会長で、現教区長の成田光俊上人に伝法に関する講義を頂いたのが、この二年間の活動の原点となっております。

京浜浄青は、児童教化や布教・法式などの各種研修も行って参りましたが、過去二回の帰敬会の経験が踏まえ、教化活動の根底には、帰敬会・五重相伝・授戒会などの伝法に関する事柄をしっかりと据えて、教化すべきだということを考えた、今回の授戒会を開催いたしました。

五重相伝の開催がこれからの課題となりますが、無事開催のあかつきには、これらを踏まえた更なる教化活動に努力したいと思っております。



京浜浄青主催による授戒会

港北組



井村 真則

十一月二十一日、神浄青三〇周年記念事業お疲れ様でした。

とても楽しく、思い出深い一日になったと役員の皆様には感謝しております。でもソフトは昨年三位でしたので、今年は上位になんとかと思っておりますが……。

ま、来年港北組は頑張りますよ！

十二月十四日、蓮勝寺柴田文彦上人の仏式結婚式がありました。ご法類の方々や、塩澤上人のご指導を頂きながら、私もお手伝いさせて頂きました。式は当日の素晴らしい青空と同様に、とてもさわやかな新郎新婦が印象的でした（文ちゃん、尚美さんおめでとうございます！）。神浄青の皆様にご報告申し上げます。

また、これからも港北組浄青に慶事が続きますよう神浄青の皆様、お祈り申し上げます！！



Happy Wedding

港南組



大橋 俊史

諸先輩がしっかりと活動を行ってくれたおかげで、組総会で「最近の浄青はしっかりと活動を行っているから助成金をアップしましょう」といわれた。ただ今までの事業を踏襲しようと思っていた私には重い言葉。

しかし私にも行ってみたいことはあった。一つは太鼓。二つ目は茶道。三つ目は行住坐臥の念仏マラソン。

太鼓の研修会は前々から行いたかった。太鼓を持つている寺院は多いがほとんどが使用せずに保管しているだけ。私の寺も同じだ。そこで宝の持ち腐れにならないようにと行った。若い会員はきつと上達も早いだろう。

二つ目の茶道は、衣を着ているときは常に一挙手一投足を誰かに見られている私たちがお茶を飲む時に恥を掻かないようにと行った。

最後のマラソンは、単にホノルマラソンに参加したいという気持ちからだった。しかし様々な事情から延期となった。その代わりグアム日本兵が一万人玉砕したグアム島にある平和寺での慰霊参拝を行った。

まだまだやりたいこともあったのだが残された期間もあとわずか。最後に会計丸地・事務局長伊藤の両師に感謝。本当にありがとう。

高座組



渋谷 聡明

今期は三名の会員が増え、組浄青としては最大の一七名が所属するまでになりました。

前年度の勉強会では施餓鬼幡等を自分で作ってみたりもしました。また、今年度は会員が増えたこともあり、今まで会員同志で行っていた勉強会からバージョンアップをし、講師に塩澤先生をお迎えし、継続事業としての基礎的な法式の勉強会を行うことが出来ました。また、普段なかなか出来ない千

礼仏名会では礼拝やお念仏のありがたさを再認識し、恒例になりました家族親睦会では家族も含めた親睦を一層深めることが出来ました。

最近ほどの事業を行っても出席率は最高で、ほとんどの会員が毎回出席し互いに勉強し、親睦を深めております。今後ともこれらの事業を継続することにより、ますます活発になっていくことでしょう。



施餓鬼幡を作成！

内 青 淨 神



當間 浩昭

今期は現役会員二三名で平成十四年度をスタートし、平成十五年度に新入会員三名が入会し、計二五名で活動をしてまいりました。活動内容としては月々に一度、港南組と合同で柴田哲彦先生を講師に迎え、四八巻伝の經典購読研修会を始め、称賛偈や太鼓の打ち方を研修した法式研修会。三浦組と合同で大仏様（高德院）を会処とした歳末助けあい托鉢。又、イチゴ狩りやボーリングをした家族親睦会などを中心それぞれが法務など忙しい中活動をしてまいりました。又、県浄青の活動においても三十周年記念事業のソフトボール大会では、若手新入会員三名の力もあり、三位になる活躍をいたしました。



鎌倉大仏にて托鉢

鎌倉組



余郷 有聡

この二年間、三浦浄青の会長を無事勤めさせていただいたことをまずもって皆様に御礼させていただきます。特に一昨年の三浦組主催のソフトボール大会には移動距離の大きい泊まりの宴会にも拘らず大変多くの皆様にご参加いただき会員一同大いに感謝しております。

組総会、BBQ、組忘年会ならびに県浄青の事業への参加など会員同士の懇親に重点を置き、海外研修や引声勉強会、托鉢による僧侶としての研鑽の積み重ねを行ってきました。そして、遊びは人一倍 宴会命の三浦浄青（至極まつとうな人も数名いますが、慶○さんとかOBだけ）は今期、会長の私の指導の下、県下に名を轟かす名物ビングゲームを開発し、県内におけるその地位を不動のものにせんとする活動も忘れませんでした。楽しくて忙しかった思い出深い期間も終わりがきました。みなさん ありがとうございます。



海外研修（ラオス）

三浦組



三荒 弘道

私共中浄青では、浄土宗僧侶として「自己のアイデンティティーの確立」を目指す為の研修プログラムから、自己の足らなかつた部分を明確にすると共に、将来どのように念仏実践を社会に対して広めていくべきなのかという視点より、「仏式結婚式を広めよう」という事業を取り上げ三年間に渡り努力・研鑽してまいりました。今年度は十一月に開催されました神奈川教区における普通講習会が小田原組・中郡組が担当ということや、教区の有難いご配慮も頂き、講義の枠を一つ頂戴し、新しい結婚の証「行華十念」を用いた「仏式結婚式」の提案をさせて頂くことが出来ました。年令を問わず、檀信徒かどうかも問わず、お念仏の中の生活を送って頂く為の社会へのアプローチの一つになればと思っております。

私共中浄青では「仏式結婚式」のお手伝いもさせていただき準備もございました。今後よろしくお願い致します。



普通講習会で発表

中群組



柴田 幸博

小田原組浄青の活動も後半期に入り、伝統行事である親睦ゴルフコンペや忘年会、また駅頭托鉢共同募金活動が行われました。

十二月五日、八名の参加のもと富士小山GCを舞台に親睦ゴルフコンペが開催され、優勝はOBから参加の戸松上人、庄巻は昨年優勝、今回準優勝の小俣慶樹上人でした。彼はとても練習熱心だが、その結果よりもハンデキャップを引く強運の持ち主である。同日夕刻、忘年会に移行。例年は一泊だが、今回は日帰りで行われた。

続いて十二月二十三日、恒例の托鉢共同募金活動が行われた。毎年、駅に近い善光寺様を会所にお借りして、御回願の後、午前十時出発。駅頭まで歩き、二〜三時間募金活動をしました。今回は成田上人、松蔭上人の子どもも参加し、大きな勢力と成りました。



将来の浄青会員と共に托鉢

小田原組

第十七期役員紹介

相談役	編集委員	編集委員長	書記	事務局員	事務局長	監事	副会長	会長								
夏見裕貴	吉田健一	石井康順	丸地裕信	森本有史	小山英紹	柴田文彦	渋谷聡明	阿川貫浄	松江弘信	當間伸行	成田善俊	野口浩晶	井上俊道	曾我高順	三荒弘道	渡部俊賢
	佐々木元洋	進藤法雄	三浦康志	小俣慶樹		渡辺剛志	野呂幸裕	清水道善								



「神浄青第十六期総括」



相談役
杉浦 定徳

夏見会長のもとでの神浄青第十六期が終わろうとしています。「輪意和以」をスローガンに掲げ、多岐に渡っての事業が繰り広げられました。恒例事業除いて今期の特徴ある事業は、家族親睦会、社会教化事業（感謝し隊）、資質向上事業、関プロ総会・研修会、神浄青三十周年事業など、大変ボリュームあるものでした。正直言いまして、今期発足時には、はたしてすべて滞りなく実行出来るものかと危惧しました。しかし執行部はもとより、各実行委員会のメンバーの多大なる努力と各方面よりのご支援により、すべての事業において成果を上げることができ、大変喜ばしくおもいます。

この実行委員会制は、これまでも特別な事業を行う上でとられてきた実施形態ですが、これを特に発展させたのは前期宮林会長であり、今期もその形態を受け継ぎ多くの事業を実施しました。神浄青の活動理念である「自行・化他・和合」を踏まえ、会長が実際の事業としての構想を提示し、これを受けて実行委員長が自主性を持って実行委員会を運営していく形です。このいわば分業化は、いくつもの事業を平行して進められる利点があります。さらに大勢の実行委員を必要とするので、当然若い会員の意識高揚につながると思います。ただ苦言を呈すると、この分業化は会を縦割りにする恐れがあり、事業の拡大化は個人の時間と労力を必要とします。当然資金力も必要となるでしょう。今後も、「何が出来る」と言うより、「何をすべきか」を念頭に置きつつ神浄青を発展させてもらいたいと思います。

最後に、今期夏見会長より相談役を任せられ会員資格ぎりぎりまで神浄青活動に携わる事が出来たことを感謝して、第十六期総括に代えさせていただきます。

2年間ありがとうさびまり

輪意和以編集委員会



Let's 和 GO !! 編集委員会

進相曾佐 森 進森佐相水 丸香松曾

今期もそろそろ終わりだなあ、そうすねえ、
「輪意和以」でしたね、
そうだなあ、マー君と僕の間はまさに「輪意和以」でしたね、
おおお、
マー君、
「レッツアゴー」ですか？やっぱり、
「レッツアゴー」ですか？やっぱり、
早かったですね、
たね、
佐はほつといて来期もレッツ和ゴーでいきますね、
輪廻転生だよ！
だからあ、
南無阿弥陀仏、

編集後記